

新聞の切り抜き記事から

研究員 鶴岡 美宏



当センターの新聞切り抜きファイルから主な記事を抜粋して紹介します。

□第23分冊 (2014年11月7日～2015年2月6日)

館山市の課題 11.16市長選へ

安房地域の政治経済、文化の中心として発展してきた館山市。しかし、高齢化率は35.2%、18歳以下は人口の14.2%と少子高齢化が進み、大型製造業の撤退で雇用や経済問題が前途に横たわる。市長選（11月9日告示、16日投開票）を前に、市の課題を探った。（千葉日報11/7）

八街市長に北村氏再選 無投票

八街市長選が9日、告示され、現職の北村新司氏（66）のほかに立候補の届け出はなく、無投票で北村氏の再選が決まった。（読売11/11）

市民傍聴、市議動かす

四街道市議会の本会議の傍聴を続けている市民がこのほど、議員ごとの一般質問の回数をまとめて公表した。「本会議での質問は議員の最大の権利であり、放棄するのは議員失格だ」との考えで取り組んでおり、質問しない議員には「議員としての責務を果たせ」と助言している。こうした取り組みもあり今月下旬に開会する市議会一般質問では議長を除く議員全員19人が一般質問に立つ予定だ。（朝日11/15）

館山市長に金丸氏

館山市長選は16日投票され、即日開票の結果、無所属の現職金丸謙一氏(66)が元千葉テレビ放送局長の渡辺正史氏を破り3選を果たした。（朝日11/17）

千葉県議会 一般質問要旨

無所属の藤代政夫議員は道路の欠陥など管理瑕疵に伴う県道での事故件数を聞いた。永田健県土整備部長は「県が管理する国道と県道の昨年度の問題管理瑕疵に伴う件数は32件」と報告した。（千葉日報12/6）

小泉氏、無投票で3選

任期満了に伴う成田市長選は12日告示され、現職の小泉一成市長(58)以外に立候補の届け出がなく、

無投票で3選が決まった。（千葉日報12/15）

市川市議会に2つの百条委 政活費めぐり応酬

市川市議会に2つの百条委員会の設置を12月24日に決めた。地方自治法に基づく調査権限を持つが、同時に2つ設置するのは極めて異例だ。市議29人が疑義を指摘され、調査対象とされた政務活動費とは何か。（朝日12/27）

4.8億円赤字見通し 銚子市、財政再建厳しく

財政難に直面している銚子市は15日、現時点で本年度約4億8,500万円の収支不足が見込まれると、市行財政改革審議会で明らかにした。（千葉日報1/16）

若い女性住みよき君津へ 市役所若手7人で検討班

君津市は、子育て世代の女性の定住促進を図るため、若手女性職員が参加する「若い女性が住みたいと思う町検討プロジェクト」のチームを発足させた。女性ならではの感性を生かし、出産、育児をしやすい環境を作って人口減に歯止めをかけようという狙い。（読売1/17）

我孫子市長選、星野氏3選

我孫子市長選は18日、投開票され、現職で無所属の星野順一郎氏(57)が元市議の海津にいな氏(61)を破り3選を果たした。（朝日1/19）

千葉県の新年度一般会計当初予算案

県は30日、2015年度の当初予算案を発表した。一般会計は1兆7,095億7,700万円で、過去最大となった。県内経済の活性化など6つの分野に重点配分した。ただ、社会保障費の増加などで財源不足の構造は変わらない。（朝日1/31）

□第24分冊 (2015年2月10日～3月31日)

千葉市2015年度当初予算案

千葉市は12日、2015年度当初予算案を発表した。一般会計は3,902億円で2年連続過去最大を更新。少子高齢化に伴う扶助費の伸びなどで歳出が膨ら

む一方、国の税制改正の影響で自主財源の柱となる市税収入は減少。基金取り崩しや交付金で補う厳しい編成作業を迫られた。(千葉日報2/13)

千葉県議会代表質問 答弁要旨

民主党の竹内圭司議員は生活保護世帯の進学状況や学習支援について質問した。諸橋副知事は「本年度の本県の高校進学率は98.6%だが、生活保護世帯の子供は90%」と報告。(千葉日報2/20)

3市「貯金」確保に苦慮

財政危機を宣言している千葉県内の3市(銚子市、富津市、八千代市)が貯金にあたる財政調整基金の確保に苦心している。八千代市は土地取得資金として積み立てていた基金の一部を一般財源に充て、財調からの繰入額を抑える。富津市は退職手当債を起債し、借金をして財調に積み立てる。ただ、対策はその場しのぎでしかなく、抜本的な解決にはならない。(日経2/20)

千葉県議会代表質問 答弁要旨

社民党の小宮清子議員は、特別養護老人ホームの県内の整備状況を聞いた。諸橋副知事は「2013年10月1日現在で、65歳以上の人口10万人当たりの特養ホームの定員数をみると、本県は1,396人で全国平均(1,647人)より251人少ない状況」と述べた。全国順位は46位。(千葉日報2/21)

統一選15 選択を前に

地域の活力維持に向けた「地方創生」の必要性が叫ばれる中、4年に1度の統一選が4月に迫っている。人口減少社会を迎え、県や市町村、関係者たちは直面する問題にどう向き合っているか。「選択」の時を前に、課題の現場をレポート。

1 子育て、2 農業、3 財政、4 観光、5 公共事業、6 医療、7 産業、8 人口減(読売2/24~3/4)

自治体「消滅」に危機感 県内首長の7割、人口減少で

人口減少により自らの自治体が「消滅しかねない」との危機感を抱いている県内首長が全体の7割以上に上ることが共同通信社のアンケートで分かった。(千葉日報3/1)

2015統一地方選 議長任期 1年交代慣例に変化も

議会のトップに立ち議会をまとめる議長。その任期は慣例や申し合わせにより、県や市町村でバラバラだ。1年交代の自治体が少なくない中、リーダーシップを発揮するために議長の任期を2年にする議会が増えている。(朝日3/10)

「若手議会」首都圏ばかり

若い議員が多いほど政策条例の制定に積極的に議会が活性化していることが、毎日新聞の調査で明確になった。平均年齢が低い議会のトップ10は神奈川県逗子市議会の47.4歳を筆頭に、11自治体のうち8自治体が首都圏に集中。逆に高い議会のトップ10はすべて町村議会で、人口減の著しい北海道や四国の自治体が並んだ。(毎日3/16)

千葉県議選の構図 上・中・下

統一地方選の前半戦にあたる県議選が4月3日に告示される。朝日新聞の16日現在の取材では、46選挙区(定数95)で計133人が立候補の意思を示している。各選挙区で予想される構図と顔ぶれを3回に分けて紹介する。(朝日3/17~3/19)

「乾杯条例」コピー拡散

国会の議員立法に相当し、自治体議会の活発度や改革度を測る指標とされる政策条例だが、その代表例である「乾杯条例」が増殖中だ。条例を設けた自治体は100を超えた。その多くは先行の事例をコピーしただけだとして、議会の「政策力」を疑問視する声が上がっている。(毎日3/19)

自民女性県議40年不在

千葉県議会の自民党に少なくとも40年超、女性議員が誕生していない。首都圏1都3県で女性がいないのは千葉のみで、4月の県議選でも擁立はなさそう。県連幹部は「排除しているわけではない」と釈明するが、安倍首相が推進する「女性が活躍する社会」に反する実態だ。(毎日3/22)

道府県議選23%が無投票 過去最高の可能性

4月3日に告示される統一地方選の41道府県議選で、定数に占める無投票当選者の割合が前回2011年統一選から5ポイント増の22.6%となり、総務省に記録が残っている1951年の統一選以降、過去最高となる可能性があることが毎日新聞の集計で分かった。(毎日3/29)

風 知 草

統一地方選だ。良質な議員を選びたい。良質とは何か。この問いを突き詰めて投票に臨みたい。「地方議会は学芸会だ」と言ったのは片山善博・慶応大学教授(元総務相)である。一見真剣勝負と見える議場での首長と議員のやりとりが、実は台本通りの猿芝居という意味。…(毎日3/30)

<以下次号へ>